

49

はなだ 花田地区

別紙MAP
E-6、F-6



阿弥陀堂と石塔石仏



本尊の阿弥陀仏は木像の坐像勢至菩薩、観音菩薩の脇侍が祀られている。阿弥陀堂の横にたくさんの石塔石仏が並べてあるが、ほとんどが上原田廃寺にあった。



高乃木神社



「播磨国風土記」に「白なめし」の記述があるように、当地は、皮革産業で発展してきた。高木には聖神社、大將軍神社、天満神社があったが昭和39年に現在の地に合祀し、高乃木神社とした。聖神社は、高木白なめしの祖聖翁を祀る。



小川天満神社



小川天満神社は、小川の氏宮で、興国元年(1340)に勧請され、当初は小川字高岸にあったが、正保4年(1647)現在の地に移された。杉板に菅原道真の像を刻み御神体として祀っているため、別名杉板神社ともいう。



勅旨大歳神社



もと字天川の宮田にあったが、元禄の頃、今の地に移した。野里の山王神社より分霊を勧進し三王大明神と称していたが、明治維新後、野里本社が日吉神社と改称したときに当社も大歳神社と改称した。



加納神社と行者堂



加納神社のご神体は地藏尊。古宮愛宕社の本地仏が勝軍地藏であることから、この地藏の霊夢を感じて加納田の開発を遂げ、目つ溝筋を教示されたことから地藏尊の像を彫み、これを加納大神として奉斎した。



定額寺



定額寺の草創は奈良時代で、私寺として建立され、のち定額官寺の一つに列せられたと伝わる。境内に石積山古墳より出土した石棺材があり、それに刻まれた石仏は室町時代のものと伝わる。



子安地藏



右手に錫杖、左手に宝珠を持った立像である。姫路城主榊原式部大輔の姫君懐妊して霊夢を感じ、この尊像を祈念して安産なし給うとある。



花田井 (別名:花田湯(はなだゆ))



市川に井堰をつくり分流し、高木、小川、勅旨、上原田、加納原田、豊国、深志野、国分寺、御着などの耕地を養っている。天保元年(1830)に保城山麓に新しい樋門を作り現在に至る。校区の花田は花田井からつけられた。



五霊天神社



一本松は、昔、市ノ郷の御霊天神社を氏神とした。御霊天神社の祭神は五霊天であった。少彦名神をはじめ猿田彦命、神功皇后、応神天皇、大歳神の五神霊を祀ったので五霊天神社という。現在、菅原道真を祭神として祀っている。



若宮神社



奈良時代に草創された乗福寺の鎮守若宮大権現の遺祠と伝わる。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



安養寺



本尊は阿弥陀如来、曹洞宗で姫路景福寺の末寺。「姫路城史」に天正7年(1579)、羽柴秀吉は御着城攻めに際し、別所村安養寺と民家に放火。このとき安養寺衆徒も御着城に立て籠もったとある。



仏心寺 石造五輪塔



仏心寺裏の墓地にあり凝灰岩製。火輪(笠石)と風輪(受花)の一部が欠け、空輪(宝珠)は後補である。各輪の四面に四門の梵字を配し、書体は端正な葉研彫り、地輪(基礎)は、やや下膨れで安定感がある。鎌倉時代の作。県指定重要文化財。



白髭神社



天正元年(1573)三木城主別所長治が増位山の僧、安芸法印を攻め寺堂を焼いたその時、増位山の鎮守であった当社も、佐土字北出口に移されたが、後に現在の大村山麓(家具町北側)に移され祀られている。



弁慶地蔵



別所の旧山陽道沿いにあり、別名泡子地蔵と呼ばれる。本尊は、凝灰岩質の板石を掘りくぼめ、地蔵坐像を陽刻し「天文二二年(1535)乙未八月廿六日」ほかの銘文がある。かつて子宝地蔵として参拝者も多かった。



真禅寺石棺仏



八王山真禅寺は、臨済宗妙心寺派。本尊は観世音菩薩。本堂前の庭園に東面して石棺仏が立っており、高さ1.08m、幅87cm。古墳の家型石棺の石に阿弥陀坐像を刻んでいる。



三ツ塚古墳



市立東中学校前庭に保存されている横穴式石室古墳。玄室の長さ4m、高さ2.5mの円墳で、古墳時代後期(6世紀)になるとこのような小古墳が多数作られるようになり、村の有力者やその家族が葬られた。



日吉神社(別所)



もと山王権現、天照大神、牛頭天王、薬師如来を合祀していたが、明治初年の神仏分離により、江州日吉神社より大山祇神を勧請、雨神として知られる。参道入口の常夜灯は、明治20年に雨乞い開願によって建立されたもの。



山神社



佐土新集落の奥、桶居山の南西麓にあり、祭神は大山祇神。境内と玉垣に接して二基の古墳があり、いずれも横穴式石室古墳。境内の開村三百年記念碑は、明暦元年(1655)姫路城主神原忠次によって開村された歴史を刻む。



福乗寺



播磨国の真宗三道場の一つとして建てられた。姫路城主池田輝政の大谷派に対する迫害のため、一時、但馬国出石町(現在の豊岡市出石町)に逃避していたが、元和9年(1623)に現在の場所に帰り、福乗寺として再建。



六騎塚



建武3年、児島高德の父範長主従6人が自害した跡と伝えられる。北宿の旧山陽道北側に碑が建っている。正面に「備後守児嶋君墓」裏に「嘉永三年庚戌年(1850)五月十九日 佐和田清左衛門範一建之」と彫られている。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プランの概要」

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

-  遺跡・史跡、歴史上の名所
-  神社・仏閣、歴史的建造物
-  歴史上の人物など
-  祭り 伝統行事
-  美術品
-  伝統芸能など
-  景勝
-  生物・花
-  町並み
-  etc その他



延命寺の板碑



本堂の西北隅に板石碑があって上部正面に阿弥陀如来をあらわす梵字が刻まれており、左に「貞和元年」(1345)、右に酉年仏らしい文字がかすかに見える。庶民はりっぱな仏像を作るかわりに、板碑を作って拜んでいた。



大えのき(市指定保存樹) 指定番号36 先祖橋側



大きく枝を張った姿の良さ、樹齢の古さは市内有数のエノキである。樹高はやや低い。推定樹齢300～400年、樹高13m、幹周3.1m。



黒田家廟所



福岡城主黒田家の先祖を祀っている。周りを囲んでいる石塀は高砂市の竜山石。黒田家は重隆が御着城主小寺氏につかえ、職隆-孝高と続いたが、孝高(如水)が秀吉、家康につかえてその子孫は福岡城主となった。市指定史跡。



御着大歳神社と絵馬



拜殿に、明治・大正・昭和の絵馬がたくさんあり、歴史絵巻を見るようである。当社の遺物としては、門前にある天満神社の鳥居には寛文十三年九月の文字が彫られていて、当時はこの鳥居が当社の鳥居であったようである。



御着城址



戦国時代、赤松氏の一族、小寺政隆の築城とされる。御着城址公園内・東出張所あたりが本丸で、その東が二ノ丸。二ノ丸の発掘調査では建物の礎石や日用品が出土。国道南の家並みももとは城内であった。国道の北には濠や土塁が残っている。



小寺大明神



御着城本丸跡にあり、三代の城主(小寺政隆公・則職公・政職公)と当時の戦死者を祀る。同じく東隣に開運繁栄の神である当勝稻荷社(まさかついなりしゃ)がある。同所公園内に城主供養の墓と天川政隆氏の歌碑がある。



大日さんの石棺仏



本堂前に南面して2基の石棺仏が建てられている。大永7年(1527)の銘がある。向かって左側は、現高1.43m、幅96cm。石棺の蓋石に四角の輪郭を彫る。右側の1基は、現高1.16m、幅77cm、像高46cmで凝灰岩製。



壇場山古墳



全長約143m、5世紀前半の前方後円墳で、南南東に後円部を、北北西に前方部を向け、くびれ部の西側に造り出しが認められる。周囲には陪塚の第1、第2古墳がある。西播磨最大の古墳で国指定史跡。



播磨国分寺



国分寺は、奈良時代聖武天皇の詔により、国毎60余ヶ所に設置することが定められた官寺。国分寺は方二町(一辺200m)の範囲が寺域で現在、国指定史跡となっている。現在の国分寺の境内には県指定の宝篋印塔などがある。



山之越古墳



第三古墳と書かれた石柱が立つ。一辺約50mの方墳で、周囲に濠もめぐっていたようである。盛り土が削られているが、頂上に大石棺が見えている。明治30年、発掘調査され、鏡・刀剣・玉などが出土した。国指定史跡。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プランの構築」

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



- | | | | |
|--|------------------|--|------------|
| | 遺跡・史跡、
歴史上の名所 | | 伝統芸能
など |
| | 神社・仏閣、
歴史的建造物 | | 景勝 |
| | 歴史上の
人物など | | 生物・花 |
| | 祭り
伝統行事 | | 町並み |
| | 美術品 | | etc その他 |

阿保古墳群



麻生山と仁寿山の間谷間に点在する、6世紀から7世紀にかけての横穴式石室を持つ群集墳。早くから盗掘を受け、「飾磨郡誌」には、24～25基の古墳の残存が記されている。別名、阿保の百穴(百塚)ともいう。



火山古墳群



見野から本郷の山すそに多くの古墳が点在する。本郷の北部の古墳は工場用地の造成の際、残念ながら取り壊された。



印鐸神社



印鐸神社は、八重嶽山中腹の山脇字宮山にあり、祭神は神功皇后(じんぐうこうごう)、竹内宿禰(たけうちのみこと)、大己貴命(おおなむちのみこと)の三座である。古代、国府の近くに置かれた。



見野古墳群



見野和光公園を中心に、古墳時代後期の横穴式石室を持つ20基の古墳が点在する。そのうち2基の古墳は大変珍しく、1つの封土に二つの石室を持つもの、もう一つは天井石が5mもある巨石であるため「姫路の石舞台」とも呼ばれている。



坂元山古墳群



宮山古墳の西方の坂元山尾根上に、6基の竪穴式石室、南裾に4基の横穴式石室を持つ古墳が点在している。



見野廃寺跡



四郷町見野字二階堂にある薬師堂を中心に、白鳳期の寺院があり、薬師堂境内には当時の布目瓦が散在し、寺跡であったことが分かる。また、四五四塚の記載が見られる所から、円形柱座孔を持つ塔心礎が発掘された。



新羅神社



新羅神社は、明田の氏宮で、祭神は息長足姫命(おきながたらしひめのみこと)、誉田別命(ほんだわけのみこと)、足仲彦命(あしなかひこのみこと)の三座。現在の社殿は明治時代のもの。元禄時代の灯籠も残っている。



宮山古墳



宮山古墳は5世紀後半の古墳で、直径約30m、竪穴式石室を持つ円墳。昭和44年、48年の2回の緊急発掘調査で、3つの埋葬施設が確認され、県指定史跡となった。平成17年、埋蔵文化財センターが隣接地にオープン。



長塚古墳



見野集落の東、水田の中にある前方後円墳(平成7年の調査)。石室は、前方部と後円部で、いずれも東西を軸とし、東に羨道を有する横穴式石室である。須恵器(すえき)や銅鏡などのほか、管玉、ガラス玉などの装身具も出土している。



明治天皇駐蹕碑



明治36年、日露間は険悪なムードで、ロシアとの戦いを想定した陸軍大演習が播磨平野を中心に行われた。その際、明治天皇が元取山で統監されたことを記念して立てられた駐蹕碑。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～検証と未来へのアプローチ～
「取組の類型化」

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プランの展開」

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



小原と熊野神社



室町時代より播磨国飾東郡小原村として登場。京都八瀬小原(大原)の住民が移り住んだのが村の起こりと言われ、地名も「小原」にしたと伝わる。熊野神社には、元文元年(1736)と宝暦10年(1760)の石鳥居などがある。



八王子神社(山崎)



山崎集落北の山麓にあり、古くは八王子若王子権現と呼ばれ、八王子神、若王子神などを祭神とする。明治元年に姫路城から移築されたと伝わる高麗門形式の門があったが、老朽化が著しく倒壊のおそれがあり、平成23年に撤去された。



春日神社(八重畑)



祭神は天津児屋根命などの神々となっているが、旧幕のころは若王子神社だったと伝わる。境内には、鉾毒被害田の減税を嘆願した河本弥信の碑など、先人の顕彰碑がある。



姫ヶ塚五輪塔(小原)



小原バス停から国道372号を600mほど北東に、右に折れる小道があり、その先に樋枝池がある。堰堤の下に「姫ヶ塚」と呼ばれる五輪塔があり、礎石に「志趣者為自他法界平等利益也」の銘文と建武4年(1337)の年号を刻む。



苔の清水・苔の地蔵(山崎)



国道372号山崎バス停から天川を渡り、自転車専用道を南下すると、山麓にお堂があり、右脇に清水が湧いている。この清水は苔の清水と呼ばれ、播磨十水の一つといわれた。また、お堂には3体の石仏があり、苔の地蔵と呼ばれてきた。



ホテルの里(雑郷川～大釜新)



平成2年、天川の支流、雑郷川の整備がなされた。谷内小学校とPTAがホテルの乱舞するふる里づくりに取り組んだ。卵から幼虫への飼育には、全児童が参加し、5月には川に放流、6月には蛍の飛び交う里を復活した。



巡礼道(丹波街道)



法華山一乗寺から書写山圓教寺に通じる巡礼道で、大釜から八重畑雉子端を通り、山崎の橋を渡り天川に沿って豊国へ、市川松ヶ瀬を渡って保城に通じる道をいう。八重畑には合羽屋・紅屋などの巡礼宿があった。



八重畑鉦山跡



天川の支流、八重畑川に沿って北上すると金池がある。この池の東西山麓一帯が、八重畑鉦山(長谷山鉦山、有乳山鉦山、別名太閤鉦山)の跡である。銀・銅・亜鉛・スズを採掘していたが、大正時代に中止、廃鉦になった。



道標(小原)



小原バス停から国道372号を600mほど北東へ行くと、右に折れる小道がある。この角に2基の道標があり、「右ほっけ 左たんぼ」と刻まれている。ここが丹波道で、ここに交差する小道が巡礼道の間道であったことを示している。



八重畑の廻国塔



天川の左岸、谷内公民館の南の山麓に建てられている。正面に「大乘妙典日本廻国供養塔 六十六部天下和順 日月清明」とあり、嘉永元年(1848)願主当村伊左工門の銘文がある。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



- | | | | |
|--|------------------|--|------------|
| | 遺跡・史跡、
歴史上の名所 | | 伝統芸能
など |
| | 神社・仏閣、
歴史的建造物 | | 景勝 |
| | 歴史上の
人物など | | 生物・花 |
| | 祭り
伝統行事 | | 町並み |
| | 美術品 | | etc その他 |

春日野古墳群(飾東古墳群)



城山中学校の北の山麓などに12の古墳が散在している。1号墳は特色ある石室構造をもっており、2号墳は、播磨では最大級の円墳であることが確認され、金メッキを施した銅製の馬具の一部などが発見されている。



春日野神社(春日野)



社伝によれば、長暦元年(1037)に春日四所大明神をこの地に祀ったと伝わる。奈良時代に書かれた「播磨国風土記」小川里の条に「射目前」の名があり、これは塩崎の小字射目前のことであると伝わる。絵馬「四季農耕図」がある。



北向きの地蔵さん(塩崎)



村の南、迎山の麓の公園の南にある地蔵立像。右手に錫杖、左手に宝珠を持った地蔵。宝永4年(1707)の銘文がある。村に向かって北を向いているのは、村を見守ってくれるようにとの願いだと伝わる。



子安地蔵(佐良和)



佐良和の地蔵堂に南面して建てられている。古墳時代の石の棺桶の一部とみられる板石に地蔵を浅く彫っている。正平18年(1363)、600年以上前に造られた古い地蔵であり、「子安地蔵」として安産を願って信仰されてきた。



歳徳神社(佐良和)



戦で足に重傷を負った武将がこの地で死に臨んだ際、「歩行不自由なる者何人によらず、一切我これを守護せん」と遺言したと伝わる。以来、足腰に病気のある者が参詣し、4月の第一日曜日(春祭)に、柴灯大護摩が焚かれる。



巡礼道(丹波街道)



法華山一乗寺から書写山圓教寺に通じる巡礼道で、大釜から八重畑を通り、山崎の橋を渡り天川に沿って豊国へ、石積山の麓を通り、市川松ヶ瀬を渡って保城に通じる道をいう。庄には萬屋・大黒屋などの巡礼宿があった。



祥瑞山医王寺(庄)



元は、播磨国の国分寺の七体薬師の一体を祭った小さなお堂があった。寛永年間(1624～1644)に庄村の月窓(八杉八郎左衛門)が景福寺の15世哲岑羊察和尚を招いて開山和尚として曹洞宗に改め、祥瑞山医王寺と号した。



庄山城跡



庄から豊国に至る集落の北に中世の山麓を代表する庄山城跡(194m)がある。赤松貞範が正平4年(1349)に築いたもので、丹波道、有馬道、但馬道が山麓で交差する交通の要地に当たる。石垣、井戸などの遺構がわずかに残る。



豊国の道標



谷外小学校から100mあまり西の三差路にあるこの道標は、西国三十三所巡礼を成就した人たちが延宝5年(1677)に建てた。道標として姫路市内で最も古く、全国的にも古い道標である。市指定文化財。



白山神社(志吹)



創立年代は不詳だが、元文5年(1740)の「白山権現社記」によると大岩の上に鎮座する大神は、神代の昔、イザナミの尊が泉津平坂から千人で大岩を引いて来たとのいわれにまつわるものと伝わる。岩の形から蝶子岩ともいう。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



- | | |
|--------------|---------|
| 遺跡・史跡、歴史上の名所 | 伝統芸能など |
| 神社・仏閣、歴史的建造物 | 景勝 |
| 歴史上の人物など | 生物・花 |
| 祭り 伝統行事 | 町並み |
| 美術品 | etc その他 |

0m 500m 1km

泡子八幡神社 庚申堂



仁豊野地区の鎮守で、境内には天神社、琴平社、愛宕社など五末社や、庚申堂、地蔵堂があり、神仏融合の姿をとどめている。庚申堂の庚申とは、疫病・魔除けを祈った民間信仰で、内部に多くの猿のぬいぐるみが奉納されている。



権現山古墳



南に開口部をもつ横穴式古墳で、一辺 30m ほどの方墳とみられている。羨道は 10m、玄室は片袖式、奥行 4m、幅 2m は市内最大規模。市指定史跡。



大歳神社



祭神は大年神。砥堀村の氏宮。安政 6 年 (1859) の石鳥居をはじめ、宮型燈籠、春日型燈籠など、江戸期の石造品、天保 11 年 (1840) の富士裾野巻狩図をはじめ江戸期の絵馬も多くある。



仙源寺跡



仙源寺跡は弥高山の峰にあり山城 (構居) の形態を示唆している。



近畿自然歩道 そうめん滝の遊歩道 そうめん滝キャンプ場-弥高山・仙源寺跡



弥高山から流れ出る渓谷の景観は奇岩、滝の風情があり、「そうめん滝」の名称で呼ばれている。渓谷は落葉樹林なら、ブナ、樺が群棲し森林浴に適している。上流にはキャンプ場もあり、近畿自然歩道として多くの市民に親しまれている。



春川神社



祭神は御年大神・大年大神・若年大神である。弘化 2 年 (1845) の狛犬、宝暦 9 年 (1759)、慶応 2 年 (1866) の燈籠などの石造品、「領主に米を納める図」「参議対韓問題を論ず図」など、明治時代の世相を反映したユニークな絵図がある。



銀の馬車道「馬車道修築碑」



姫路・砥堀にある橋が「生野橋」と言われる。この馬車道で一番の難工事が市川架橋であったため、それを記念して生野の名をとり「生野橋」と命名された。この道路の来歴を記したのがこの碑である。



三上参次 (1865~1939)



明治 13 年、砥堀小学校 (桃李小学校) の教員となる。その後、東大の教授となり明治から昭和時代、日本を代表する歴史学者として活躍し、史料編纂所で「大日本史料」を刊行。そうめん滝の「砂防竣工記念」碑は三上参次筆である。



小玉神社



宇賀魂神を祭祀し、地域住民の篤い信仰をうけている。



和辻哲郎の生家 (1889~1960)



砥堀小学校を卒業し東大に入学。東京帝国大学で古典及び仏教美術を研究し、「風土」「古寺巡礼」など多くの著書を著した日本を代表する思想家。碑があり「春の来た日に 和辻哲郎 ここに生まれる」と刻まれている。



1 地域夢プランの歩み
〜はじまりからこれまで〜

2 地域夢プランのかたち
〜取組の類型化〜

3 地域夢プランのとりえ方
〜検証と未来へのアプローチ〜
(1) 「姫路市地域夢プランの構築」

3 地域夢プランのとりえ方
〜検証と未来へのアプローチ〜
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
〜地区からの情報発信〜
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
〜地区からの情報発信〜
(2) 地域資源一覧



- | | |
|--|--|
|  遺跡・史跡、
歴史上の名所 |  伝統芸能
など |
|  神社・仏閣、
歴史的建造物 |  景勝 |
|  歴史上の
人物など |  生物・花 |
|  祭り
伝統行事 |  町並み |
|  美術品 |  etc その他 |

0m 500m 1km



金竹獅子



金竹の獅子舞は、200年以上前より、現在に至るまで伝承されてきた郷土の誇りであり、五穀豊穡・子孫繁栄を祈願し、奉納している。平成23年2月市指定重要文化財に指定された。



福林寺石造地藏半跏像



地藏像は、半跏像という形式で、堂々たる体躯と力強い衣文線など、素朴ながら優れた作品である。背面には、元享3年(1323)の刻銘があり、市内では数少ない鎌倉末期の石造品である。市指定文化財。



甲山



「播磨国風土記」にある冑岡のことと考えられる。伝承によると、「豊富」の地名は「播磨国風土記」に由来する。市川沿いの独立丘(標高107.8m)で、山頂に甲八幡神社がある。



太尾城



「播磨鑑」に、城主は太尾兵庫頭與次、天正の頃落城とある。また「赤松家播備作城記」には、文明元年(1469)、後藤基信が居城し、五代後に落城という。標高132.5mの山頂に東西に長い平坦地があり城跡とみられる。



順礼橋の碑



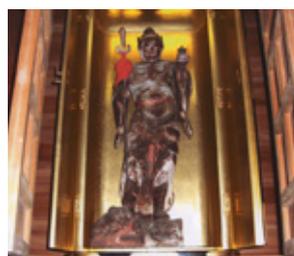
神谷川の堤防に立つ明治17年に造られた碑。順礼橋は、当時廣峯神社から法華山へと参拝する多くの巡礼が利用した。当時としてはめずらしく、総石造りであった。現在、神谷川が拡幅され、鉄筋コンクリート製になっている。



木像毘沙門天立像(岩屋寺)



十二世紀前半ごろ、藤原時代の作とみられ、市内に残る毘沙門天像の中では、随願寺(増位山)のものと同様に優秀作である。国指定重要文化財。



大日如来石仏(大日堂寺)



細野地藏堂に、寛文13年(1673)にできた大日如来像がある。姫路城主松平直矩の夫人宮内氏の寄進と伝える。大日如来石仏(寛文13年(1673))、供養塔(宝暦6年(1756))。



焚堂



「太平記」の逸話から、圓通寺裏手の小堂は、高師直に追われた塩冶高貞の妻が自害した場所との伝承があり、焼けた堂の跡に、文政2年(1819)に「蔭山焚堂早田妙応夫人の碑」が立てられた。



新次神社の伊部狛犬



新次神社の伊部狛犬は、奈良朝の昔から焼物を造っていた備前の伊部で、江戸末期の文政時代に造られたものである。姫路では曾坂の新次神社、林田町下伊勢の榎神社にそれぞれ一対あるだけである。



横山古墳(県指定史跡)



昭和40年の発掘調査によると、一号墳は、径21m、高さ2.3mの円墳で、竪穴式石室と推定される。二号墳は、一号墳の東に位置し、径18.6m、高さ5.5mを測る円墳。内部主体は二基の組み合わせ式箱形石棺が確認されている。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧